

## 大阪人権博物館 再開めど立たず

写真は朝日 20 日。記事を抜粋して紹介したい。昨年 6 月に休館した大阪人権博物館（リバティおおさか、大阪市浪速区）の建物を解体し、更地にする工事が今月末で終了する。6 月末に終了予定だったが、コロナ禍の影響で大幅に遅れていた。博物館を運営する財団は全国水平社創設 100 年にあたる 2022 年に別の場所での再開を目指しているか、めどは立っていない。

リバティおおさかは、1985 年、大阪市の市有地に部落問題を扱う大阪人権歴史資料館として開館。市有地はもともと被差別部落出身の有志が土地や資金を出し合って 28 年に整備した旧大阪市立栄小学校の跡地で、市は財団に無償で提供した。資料館は 95 年に拡充され、展示は民族、障害者、性別などの人権問題にも広がり、館名も変更された。

立ち退きは、2008 年に府知事だった橋下徹氏が展示内容について、「差別や人権などネガティブな部分が多い」と問題視したことが発端になった。

橋下氏が大阪市長に転じた後の 13 年、財政改革の一環だとして府市の運営補助金が廃止され、15 年に市有地は有償化された。財団は大阪市に無償の継続や大幅な賃料減免を求めたが受け入れられず、昨年 6 月、市との間で、市有地を更地にして明け渡す一方、約 1 億 9 千万円の土地賃料が免除される和解が大阪地裁で成立した。

財団は大阪市港区のビルに事務所を移し、22 年の再開準備をしている。ただ、現時点では移転先も基本構想も決まらず、再開のめどは立っていない。財政難に加え、コロナ禍がネックになっている。所蔵品は大阪市の施設、弘済院（吹田市）で一時保管されているが、保管期限は 23 年 3 月末で、少なくともそれまでには新たな場所を確保する必要があるという。財団事務局の前田朋章さんは「22 年の再開はあきらめておらず、有識者や関係団体とさまざまな可能性について議論している」と話す。

リバティおおさかには何度も行っただ。水俣病コーナーには、「水俣病に 50 年向き合った原田正純医師」の大きな写真が展示されていた。人工呼吸器をつけて生きるコーナーには、バクバクの会の皆さんの写真が並び、「学校での生活」「地域の中で」と綴られる。多くの人に見てもらいたい展示が多かった。維新の橋下徹大阪市長が展示内容を「僕の考えに合わない」と非難して、市の補助金を打ち切り、リバティへの攻撃を強めた。

前川喜平さんは東京新聞 2020 年 5 月 31 日「本音のコラム」で次のように書いている。大阪人が世界に誇るべき人権の拠点が、大阪市によってつぶされた。大阪人の皆さん、本当にこれでいいのですか？



●昨年 6 月に休館する前の大阪人権博物館。正面玄関の脇にあった銘板の書は作家、水上勉が手がけた  
●建物が撤去され更地の状態になった大阪人権博物館の跡地＝18日、いずれも大阪市浪速区

(2021 年 9 月 23 日)